諫早総合病院地域医療支援病院運営委員会・地域協議会

令和元年度第４回会議議事録

日　時：令和２年２月２０日（木）１４:００～
会　場：諫早総合病院　６階大会議室
書　記：総務企画課　髙橋　征史

○参加者　　別添資料のとおり（院外９名・院内３名・事務局３名）

≪議　事≫

［１］紹介率・逆紹介率について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１－１１頁

令和元年１０月～令和元年１２月統計の報告
紹介率は、前年より約５％減少。
紹介患者数は、１０月、１１月は前年より減少（５０～８０件）。
診療科では神経内科、リウマチ科、呼吸器外科、歯科口腔外科が増加傾向にある。循環器内科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科は減少。
逆紹介率は年々高くなっている。
患者数も 10 月、11 月、12 月とも前年より約４０～５０件増加。
診療科別では、神経内科、循環器内科、リウマチ科、皮膚科、特に眼科の逆紹介が伸びている。
医師の常勤体制の変更により、眼科の逆紹介が著しく増加。

（長郷院長）
眼科医常勤不在となり、１０月から減少している。少し紹介患者が減少傾向である。
歯科口腔外科は常勤１名増員で患者増が予想される。

（諫早医師会　山口様）
紹介率低下の原因は何かあるのか。

（長郷院長）
ウォークインの患者増加が考えられるが、開業医からの紹介が減少している。外傷系、眼科系が減少している。開業医で診療を行う範囲を決めて、自身で診療している患者が増加しているのではないか。

（諫早医師会　山口様）
長崎医療センターが病床閉鎖となっていた期間は救急車、紹介ともに増加したのではないか。

（長郷院長）
１０月、１１月は患者が減っていた。他の医療機関でも同様に減少していた。

［２］救急患者・外来患者について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２－１６頁

救急患者数（全体）は、１０～１２月とも減少。

救急患者のうち、救急車の件数は１０月に約５０件減少、１１月前年同様、１２月は約４０件増加。ウォークイン患者が大きく減少している。

１０月、１１月は小児科の救急受診が少なかった。

（長郷院長）

１０、１１月は少なかったが、１２月中旬より増加した。前年は患者が多かったと考えられる。ベッド数の管理から言えば、ベッドを減らして運営すればいいのだが、最大数を考えての運営が必要。

（県央保健所　宗様）

１２月の救急患者が多いのはなぜか。

（長郷院長）

感染症、血管系疾患、寒い時期の病気が増えた外的要因だと思われる。医療センターは別として、他の医療機関の収容力が下がっているのが感じられる。

（諫早消防署　橋本様）

年末、１２月に入ってから救急要請が急増した、外傷での依頼が多かった印象。

（県央保健所　宗様）

医療センターからも外傷、整形外科の患者が増加していると聞いている。満床だったのか。

（長郷院長）

３名の整形外科医師で対応しており、整形外科以外のベッドも利用して対応している。他院でも整形外科の医師が不足しているようだ。民間への引き抜きなどもあっている。「数」の問題で、３名の医師で対応できる容量を超えている。努力はしているが、今後も「整形外科医師不足」は問題となってくるだろう。

［３］共同利用（開放型病床利用等）について・・・・・・・・・・・・・・・１７頁

例年と大きな変化はなし。ＭＲＩについては、平成３０年度より増加している。

利用医療機関数　１０月５４施設　１１月４４施設　１２月４２施設

（長郷院長）

医師会の４割程度の医療機関よりご利用頂いている。歯科からの依頼はないか。

（諫早市歯科医師会　浦様）

ほぼない。インプラントを実施している機関は自前のＣＴがある。歯科医師会でも広報を行っている。

［４］諫早市こども準夜診療センターについて・・・・・・・・・・・・１８－１９頁

１２月に受診患者が増加。

（長郷院長）

季節的な疾患（インフルエンザなど）が影響している。

［５］患者相談実績について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０－２１頁

退院調整に関わる相談件数については、病床稼働率に応じて件数が変化している。

（長郷院長）

経済的な問題の相談も増えてきている。

（長崎県看護協会　中村様）

紹介状なく直接受診できないことへの苦情はあるか。

（事務局　松田）

件数は減少している。

（諫早市民　馬場様）

市民の間でも「診てもらえない」という認識が根付いたことが考えられる。

（諫早医師会　山口様）

市民へ浸透してきたことは良いことだと思う。

［６］研修会開催状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３頁

研修会開催状況は、地域住民への教育研修を１０月２３回、１１月１６回、１２月２２回開催した。地域の医療・介護従事者への教育研修を１０月３回、１１月４回、１２月４回開催した。

（諫早市健康福祉部　石橋様）

患者以外でも疾患別の教室に参加したいとの声があるようだ。病院まで行くのが億劫で、出前での講座などがあれば参加者も増えるのではないか。

（長郷院長）

対応できないか、各部署長へ相談している。要望があれば対応する。

［７］その他

（諫早市民　馬場　様）

病院再編の報道などあり、県央地区の結核病床はどうなるのか。日赤の病床が無くなるようだと、ここだけになってしまう。

（長郷院長）

県央地区は大丈夫である。結核病床は減少するだろうが、他の感染症病床などで対応できる。

（諫早医師会　山口様）

市民は「病院が無くなる」と捉えているようだが、国はベッドを減らしたかったのだが、思うように減らなかったことから、国策を進めるために公表したのだと思う。

（県央保健所　宗様）

結核患者は減ってきているので、県内に今のような病床数は必要ないと思われる。

（諫早市歯科医師会　浦様）

診療情報提供書のフォームをＰＤＦだけでなく、エクセル、ワードのフォームでも提

供して欲しい。
（事務局　松田）
対応いたします。

（長崎県看護協会　中村様）
連携室へ電話した際に「紹介状」を「お手紙」と言っているので、正しい名称を使用した方がいいのではないか。
（事務局　松田）
看護部を含め、周知していく。